

総合周産期母子医療センター

センター長 早川 昌弘（病院教授） 4E

お母さんと赤ちゃんの健康を高度医療でトータルサポート

ハイリスク分娩管理を含む産科医療、生殖医療、未熟児、病的新生児に対する集中治療を行っています。

診療体制

生殖周産期部門で9名、新生児部門で9名の医師により診療をしています。夜間、休日それぞれの部門で専任の担当医を置き、緊急の分娩、手術、緊急入院対応、重症新生児の管理などを行っています。



対象疾患

ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、合併症妊娠、前置胎盤、胎児異常など）、不妊症（子宮内膜症、子宮筋腫、妊孕性温存・回復治療を含む）、早産／低出生体重児、病的新生児（新生児仮死、外科疾患合併新生児など）を対象としています。

得意分野

胎児異常、前置癒着胎盤、体外受精・顕微授精などの補助生殖医療全般、体外式模型人工肺、低体温療法などの高度医療を用いた重症新生児管理です。

診療実績

2010年では、分娩492例（うち帝王切開193例）、母体搬送31例、胎児先天異常53例、体外受精100採卵周期、胚移植139周期、NICU入院数270例、超低出生体重児11例、先天性横隔膜ヘルニア9例の実績があります。

先進医療・研究

前置癒着胎盤の病態解明、胎児横隔膜ヘルニアの重症度予測の研究、顕微鏡内蔵型培養器での胚発育連続観察、周産期脳障害に対する幹細胞を用いた再生医療の研究などを行っています。



中央感染制御部

部長 八木 哲也（教授）

病院内の感染対策を一手に引き受けるスペシャルチーム

国公立大学附属病院感染対策協議会の事務局、当院での病院感染対策を行っています。

診療体制

国公立大学附属病院感染対策協議会の事務局としての統括業務、ICD（感染管理医師）、ICN（感染管理認定看護師）、検査技師、薬剤師、事務員からなる感染対策チームによる病院感染対策、ワクチン接種外来（週1回）を行っています。



対象疾患

薬剤耐性菌や各種医療関連感染症サーベイランス、感染対策の立案と実践、難治感染症症例コンサルテーション、職業感染対策（針刺し・血液曝露事故対策、ワクチン接種など）です。



特色

決して人数は多くないですが、職種横断的なチームによるチームワークで、当院の感染制御・感染症診療・職業感染対策などを行っています。微生物検査室との連携により臨床微生物学的情報を有効に臨床現場に還元しています。

診療実績

内視鏡管理一元化、予防接種外来、インフルエンザや薬剤耐性菌感染症などの感染対策（院内での対策の策定と地域でのリーダーシップ）、難治感染症症例コンサルテーションや血液培養陽性症例への診療支援（年間約800例）などです。

先進医療・研究

薬剤耐性菌感染症の臨床的・細菌学的研究を行っています。

